



新年にあたって

自由民主党副幹事長・女性局長代理
参議院議員・薬剤師 本田 顕子

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、お健やかに輝かしい新たな年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

皆様のご支援により国政の場にお送りいただいてから 2 年半が経過致しました。初めての国会質問は令和元年 11 月の参議院厚生労働委員会における薬機法改正についての審議の時でした。その後、厚生労働委員会のみならず、災害対策特別委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会においても質問に立つ機会をいただきました。特に印象に残っているのは昨年 5 月の予算委員会における質問でした。テレビ中継もあったので大変緊張しましたが、総理大臣をはじめ 8 人の大臣から答弁をいただくことが出来たのは貴重な経験でした。

さて、一昨年に引き続き、昨年の国会も新型コロナウイルス感染症対策が中心的な課題となりました。予算委員会における私の質問も、迅速かつ的確なワクチンの接種事業の実施など新型コロナ対策が中心であり、特に総理には、重篤な感染症パンデミック等の緊急事態に対応できる法整備の必要性や国際的なパンデミックに対する安全保障上の観点からの取り組みの必要性について質問することができました。

新型コロナウイルス感染症については、ワクチンの接種率が国際的に見ても高い水準となっており、昨年 9 月末で緊急事態宣言等が解除され、通常的生活に戻りつつあります。しかし、海外の状況を見ても、第 6 波への警戒を怠るわけにはいかないと感じていたところ、新たな変異株であるオミクロン株の感染者が海外のみならず我が国でも発見され、厳格な隔離措置等が実施されています。

ところで今年の夏には大きな戦いが行われます。輝かしい年となりますことを祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

